京都市伏見地域活性化プロジェクト

春・秋連結学期 | 今出川校地開講科目

1. 目的・概要

the purpose and an outline

この授業で私たちは、伏見地域をより良く知り、解決すべき課題を発見しその解決へ向けての取り組みを検討、実践を目標に活動しました。

ブレストの結果

「新たな伏見の魅力を発信し、もう一度来たい町にする。」を基本コンセプトに具体的な活動を企画し、春学期に実験的街歩きイベントを、秋学期にWebサイトの制作を行いました。

・春学期　実施イベントの概要

日程:8月12日(日)

時間:14:30～18:00

参加者:学生36名(留学生20名程度)

内容: 5人グループ(日本人と外国人を数名ずつあわせて1グループとする)を6つ作成し、飲食店5つ(キザクラカッパカントリー様、伏見夢百衆様、安本茶舗様、富英堂様、高貝商店様)、観光地2箇所(油掛け地藏、御香宮神社)を巡ってもらいました。

参加者には、割引クーポンを配布し、それを協力店舗に渡すことにより伏見らしい食べ物を割引価格で購入し、楽しんでいただきました。特定の地域や商店街のみに購買行動が偏らないよう、一定の距離を持った5店舗を選んでおり、グループごとにあらかじめルートを決めてこれらの5店舗を巡りながら、あわせて2箇所観光を行ってもらいました。

・秋学期　Webサイト制作の概要

企画の目的:

1. 個人の趣向に合わせた伏見の魅力を知ってもらうこと
2. サイトを見ることで実際に伏見に来てもらうこと

我々プロジェクトの基本コンセプト「伏見の魅力を再発見し、もう一度来たい街にする」にあわせて、再構築する必要性を感じ、見やすく、扱いやすい、本当に『伏見に行きたい』とすぐに思ってもらえるようなサイトを作成し、コンテンツとしては伏見の隠れた魅力を発見・発信することで人を誘致し、地域の活性化につなげたいと考えます。

annual schedule

【春学期】

2012年	4月	ブレインストーミング、目標設定、コンセプトワーク　等
	5月	フィールドワーク（中書島地域、酒蔵地域　等）
	6月	イベント企画・提案、個別にフィールドワーク実施、振り返り
	7月	街歩きイベント準備、参加者募集、協力店舗依頼
	8月	街歩きイベント実施（8/12　中書島、伏見桃山、大手筋商店街を中心に）
	9月	各地域活性化の取り組みについて調査（京都市の取り組み、街コンなど）

【秋学期】

2012年	10月	秋学期目標設定、共有、ブレスト
	11月	Webサイト製作（コンセプトワーク、サイトマップ、フレームワーク製作）
	12月	Webサイト製作（取材、ページ作成）
2013年	1月	Webサイト製作、成果発表会準備

2. 成果達成度

the achievement degree

まず、春学期に「地域活性化とは何か」ということを会議やフィールドワークを通して全員で同じ認識を共有し、「伏見の新たな魅力を発見し、もう一度来たい街にする」がプロジェクトの目的として決まりました。

そして、その目的を達成するために夏休みに日本人の大学生と日本語学校に通う留学生を対象にした伏見地域の魅力を伝えるイベントを企画しました。対象をこのように設定した理由は、伏見に足を運ぶ外国人は多いが伏見稲荷以外には行かない、つまり伏見の魅力が特に外国人に対して埋もれてしまっているということが事前調査によって判明したことと、日本語学校への聞き取りで外国人留学生が日本人との交流に高い関心をもっていることが分かったためです。

イベントの内容としては私たちがフィールドワークで発見した伏見の魅力的な店舗を回る食べ歩きを主な内容とし、行く先々で運営側から「抹茶フロートを食べているメンバーの写真を撮って送って下さい」などの指令を随時出すことでメンバー同士の交流の促進も図りながら知られざる伏見の魅力を知ってもらうことを目指しました。

このイベントの事後、参加者にアンケートを行った結果、伏見にもう一度来たいと思いますか？という問いに対して全員から強く思う、少しは思うという回答をいただきました。（図1）

図1

このことから夏休みのイベント企画を通して、「伏見の新たな魅力を発見し、もう一度来たい街にする」という目的をイベントに参加した方々に対してはおおむね達成できたと思います。

しかし、秋学期により広く人々に伏見の魅力を伝えるために行ったHP制作ではどのようなHPにするのかがなかなかまとまらず、スケジュール管理の甘さを実感することとなりました。そのため、もう少しHPの完成度をあげられたのではと少し後悔しています。

3. プロジェクトを通じて

through a project

このプロジェクトを通してチームでプロジェクトを進める難しさを学びました。今回私たちはチームとしてうまく動くことができず多くの問題が生じました。しかし、今後も遭遇するであろうこのような問題をこの機会に考えられたことは私たちにとってとても価値のあることであり、こういったほかの授業では学べないことを学ぶことのできるプロジェクト科目を履修して良かったと思います。

[編集後記]

報告書を作成しながらこの1年を振り返ってみると、あっという間の1年でした。

地域活性化とは何を意味するのかを考えることから始まり、実現のための手段を議論し自らが実行したこの1年は私たちにとって得難い時間だったと思います。特にイベントが終わった時、伏見にまた来たいといってくれた参加者の声は忘れられません。私たちの活動に協力してくださった伏見の皆さん、事務室の方々、そして講師の川上さん、科目代表の竹廣先生、ありがとうございました。

[プロジェクトメンバー]

吉川 真人(文4)　藤原 壮一朗(法4)　松村 峻(経済3)　宮浦 友(経済3)　高木 佑輔(経済3)　田中 珠江(政策4)
川久保 千穂(社会2)　南川 梨恵(社会2)　小川 裕貴(SA)